

令和6年度 ガラスびん分別基準適合物引渡量分析

引渡率は過去最高ながら、引渡量は過去最低

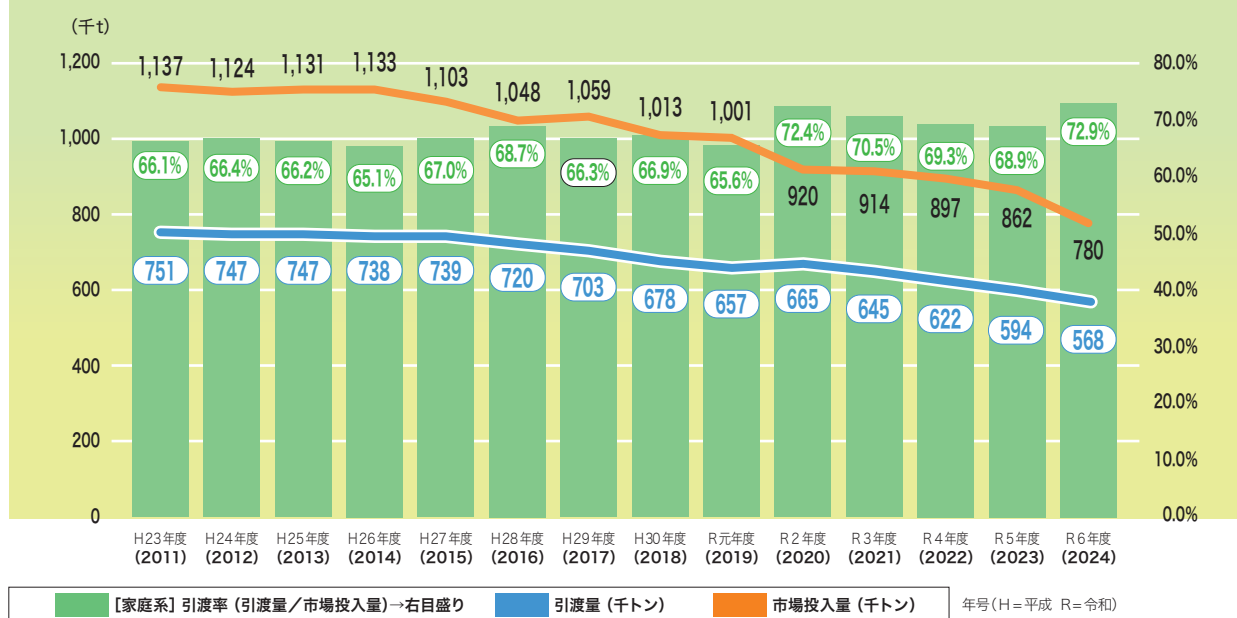
環境省が公表した「令和6年度 容器包装リサイクル法に基づく市町村の分別収集等の実績」【3面(注)】を

過去のデータや総務省の「住民基本台帳」、当協議会が2025年3月に実施した

「ガラスびんの収集・運搬方法等の2024年度全国自治体アンケート」の集計結果を使用して、加工分析を行いました。

分析から見えるガラスびんリサイクルの現状と課題を解説します。

【図1】市場投入量と引渡率、引渡率の推移



引渡率は72.9%と過去最高

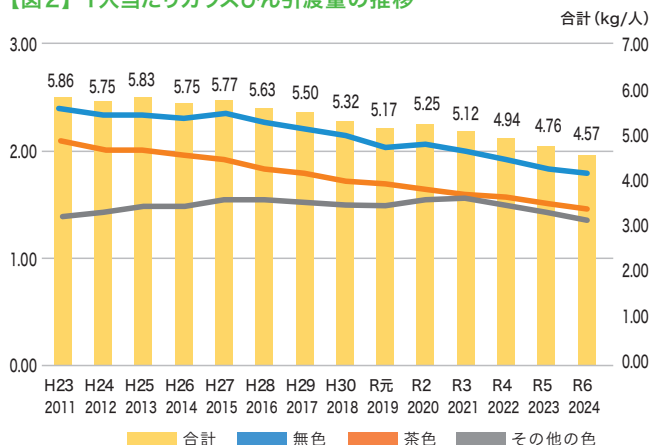
令和6年度の家庭系ワンウェイびん市場投入量に対する引渡率は72.9%となり、過去最高となりました(図1)。引渡率は令和2年度に大きく上昇した後、令和3年度以降低下傾向にありましたが、令和6年度は再び上昇に転じています。市場投入量が減少する中でも、自治体による分別収集・選別保管が一定程度維持されたことが示されています。

1人当たりガラスびん引渡量は過去最低

令和6年度の全国自治体によるガラスびん全体の引量は約568千トンとなり、令和5年度に続いて過去最低を更新しました(図1)。1人当たり引渡水量も4年連続で減少し、4.57kgとなっています(図2)。色別でも、「無色」

「茶色」「その他の色」の全てで減少傾向が続いています。背景には、家庭系ワンウェイびん市場投入量そのものの減少があると考えられます(図1)。

【図2】1人当たりガラスびん引渡水の推移



クロス分析で読み解く、ガラスびんリサイクルの現状と課題



「その他の色」への混入傾向が継続、 「無色」の引渡率は依然低水準に

色別の引渡率を見ると(図3)、「茶色」は初めて9割を超え、「その他の色」も9割近い高水準となりました。一方、「無色」は令和5年度より改善したものの56.3%にとどまり、他の色と比較して低い状況が続いています。

また、「その他の色」の構成比(図4)は平成23年度の23.6%から令和6年度は29.7%まで上昇しており、「無色」等が「その他の色」に混入している可能性が引き続き示唆されます。

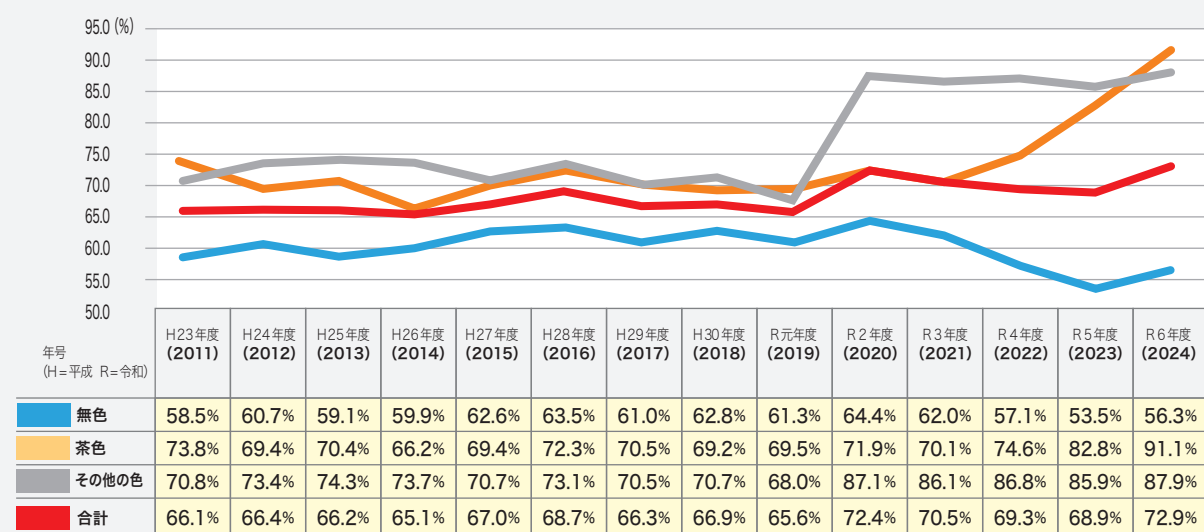
収集・運搬方法によって 引渡量に差

2024年度自治体アンケート結果とのクロス分析では、収集・運搬方法によって、1人当たり引渡率と差異率※に大きな差が見られました。

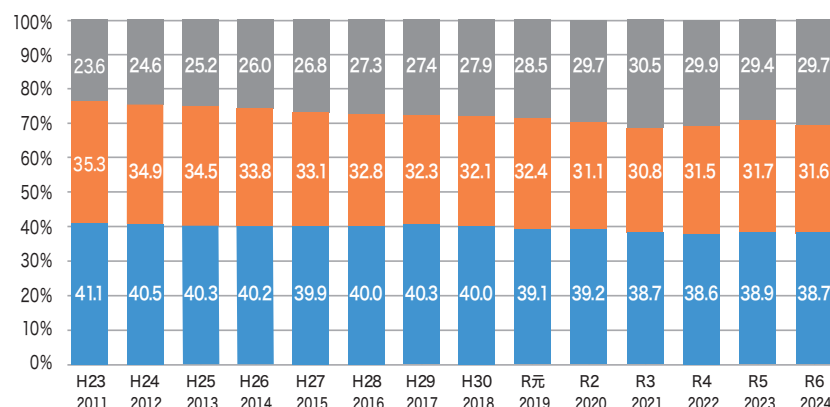
特に、「びん単独収集」「平ボデイトラック」など、びんを「割らない」「他資源物と混ぜない」方法を採用している自治体では、引渡率が多い傾向が見られました。

一方、「他資源物との混合収集」「パッカー車」など、びんが破碎・混入しやすい方法では、引渡率が少なくなる傾向が見られます。

【図3】色別【家庭系】引渡率の推移



【図4】引渡率色別構成比の推移



※分別収集量から引渡率を引き分別収集量で除し100倍した値【差異率=(分別収集量-引渡率)÷分別収集量×100】で、分別収集量のうち分別基準適合物として引き渡せなかった割合を表したもの

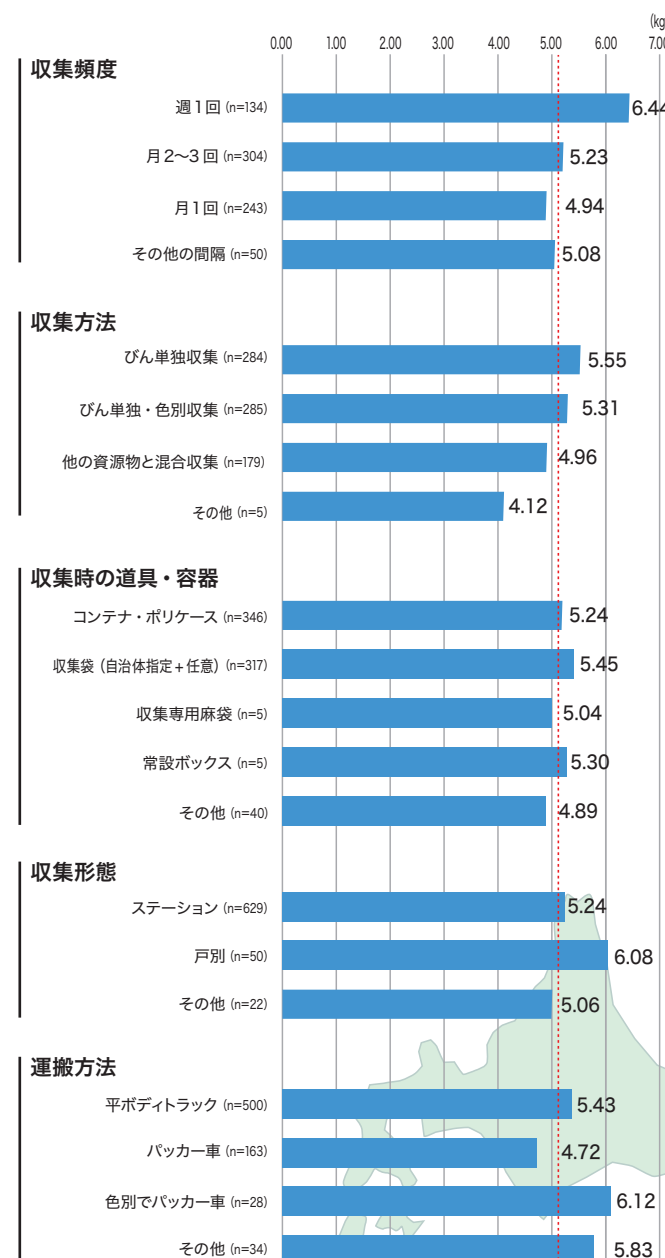
全国自治体アンケート項目

1. 空びんの収集頻度
2. 空びんの収集方法
3. 収集時の道具、容器
4. 収集形態
5. 収集時の運搬方法
6. びん排出時のラベルについて
7. 資源化センターの設備更新の予定

ガラスびんの排出・収集・色選別など7項目について自治体の回答をもとに集計しています



【図5】アンケート回答別の1人当たり引渡率の平均

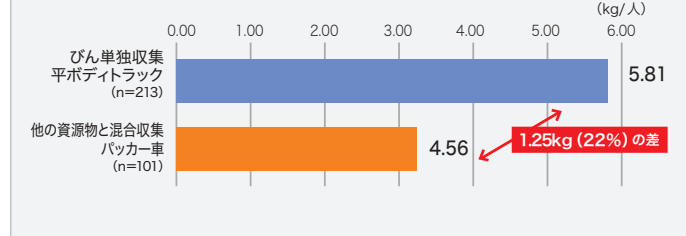


5.20kg/人
アンケート回答自治体平均

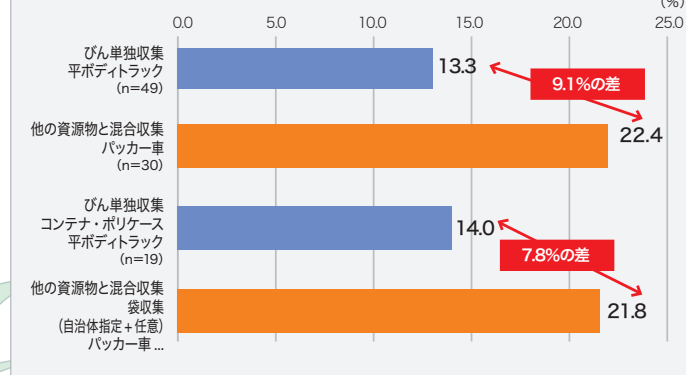
ガラスびんリサイクルの 効率・効果向上に向けて

1人当たり引渡率、差異率、「その他の色」への混入、いずれにおいても収集・運搬方法で「他の資源物と混合収集」、「パッカー車」など収集・運搬時に「混ざる」「びんを破碎する」方法は悪影響を与える可能性が高くなっています(図6、図7)。逆に、「びん単独・色別収集」「平ボデイトラック」は色別に収集したものを混ぜず、破碎せずに運搬することで選別精度が向上し差異率の上昇、「その他の色」への混入を防ぐと考えられます。

【図6】収集・運搬方法による1人当たり引渡率の平均



【図7】収集・運搬方法による差異率平均



一方で、色別に収集するには、生活者の方のご協力が不可欠であり、空きびんを資源として活用するために色別に排出することの重要性を理解していただくことが重要です。ガラスびん3R促進協議会では、生活者の方への啓発用の資料をWebサイト等でご用意しておりますので是非ご活用ください。

詳細な分析結果は当協議会Webサイトよりダウンロードいただけます。

こちら是非ご活用ください。URL: https://www.glass-3r.jp/gover/recycle_tr/pdf/cr_rpt_2024.pdf

(注) 容器包装リサイクル法に基づく市町村の分別収集等の実績(環境省)

市町村は、容器包装リサイクル法に基づき、以下の容器包装廃棄物を対象に分別収集計画を定めています。

詳細は環境省HP(https://www.env.go.jp/press/press_03687.html)を参照。

- | | | |
|--------------------------|--------------------------|----------------------|
| [1] 無色のガラス製容器 | [5] ペットボトル | [9] 段ボール製容器 |
| [2] 茶色のガラス製容器 | [6] ペットボトル以外のプラスチック製容器包装 | [10] 飲料用紙製容器(なっています) |
| [3] その他の色のガラス製容器 | [7] スチール製容器 | |
| [4] 紙製容器包装([9]及び[10]を除く) | [8] アルミ製容器 | |



2026年6月23日

第30回通常総会を開催。全議案が可決・承認

日本ガラス工業センター会議室において、第30回通常総会を会場参加とオンライン参加によるハイブリッド形式で開催しました。総会では、2025年度事業報告書(案)・収支報決算書(案)、役員選任(案)、2026年度事業計画書(案)・収支予算書(案)について審議が行われ、全議案とも可決、承認されました。

なお、今総会をもって、田中 希幸 理事・事務局長が退任し、脇坂 光が理事・事務局長に就任しました。

2026年7月10日

「第34回 容器包装交流セミナー in 富山」を開催

3R推進団体連絡会

当協議会が加盟する3R推進団体連絡会と3R・資源循環推進フォーラムの共催による「容器包装交流セミナー」が富山県富山市で行われました。同セミナーは、容器包装3Rの推進には関係する主体である消費者・自治体・事業者の連携が重要であるとの認識から、各主体との相互理解と連携を深めるために、市民・自治体・事業者の意見交換の場として今回で34回目を数えます。

当日は経産経済産業省、環境省、富山県からの挨拶の後、開催地である富山市と富山県消費者協会からの事例紹介、同連絡会の取り組み実績報告に続き、参加者によるグループディスカッションが行われました。

1.8L 壺利用及び回収に関する調査 (2025年度実績) 集計結果概要を公表

1.8L 壺再利用事業者協議会

1.8L壺再利用事業者協議会は容器包装リサイクル法第18条で定める自主回収認定容器である、丸正1.8L壺の自主回収の状況(出荷量ならびに回収量)の調査集計結果をもとに自主回収状況報告書を作成し、6月26日に国税庁に提出し、収受されました。

2025(令和6)年度の出荷量は69,892千本(66,397トン)、回収量は48,085千本(45,681トン)であり、回収率は、68.8%となり、前年から1.7ポイント低下しました。回収率低下の要因としては、出荷総量が減少する中で回収びん需要も減少していることに加え、再使用されている比率の低い無色とその他の色のびんの使用比率が高まっていることによるものと推察されます。調査集計結果の概要は、「リターナブルびんナビ」にて公表しています。

詳しくは、リターナブルびん専門ポータルサイト
「リターナブルびんポータルサイト」をご覧ください。



2026年7月8日

事業計画記者説明会を開催

「2026年度事業計画記者説明会」を日本ガラスびん協会と共催しました。当日は9社、10名の記者にお集まりいただき、当協議会からは2026年度事業計画、2025年ガラスびん3R実績、2025年度全国自治体ガラスびん収集方法のアンケート集計結果、令和6年度市町村別分別基準適合物引渡量の分析などを説明しました。

2026年4月16日

男山株式会社 工場見学会を実施

2026年4月17日

びんリユース地域交流会 2025 in 北海道を開催

びんリユース推進全国協議会

びんリユース推進全国協議会は、札幌市男女共同参画センター(札幌市)において「びんリユース地域交流会 2025 in 北海道」を開催し、会場・オンライン合わせて約86名が参加しました。

本交流会は、「びんリユースと地産地消がつなぐ 北の大地の未来」をテーマに、北海道におけるリユースびんの活用と地域循環の可能性について考えることを目的として開催しました。

基調講演では、男山株式会社の山崎五良取締役が、市民から直接びんを回収する「みんなのマイボトル」の取り組みを紹介しました。また、生活クラブ北海道、株式会社カマン、NPO法人環境り・ふれんずから、リユースびんの活用事例や普及に向けた課題・展望について報告が行われました。

質疑応答・意見交換では、地域資源循環の促進や流通事業者との連携など、北海道ならではの課題と可能性について活発な議論が交わされ、びんリユースのさらなる推進に向けた実りある交流の場となりました。



また、「びんリユース地域交流会2025 in 北海道」の前日に男山株式会社(北海道旭川市)の工場見学を実施し、20名が参加しました。市民持ち込み型の空きびん回収システム「みんなのマイボトルメンバー制度」の状況や洗びん工程を視察しました。同社のリターナブルびん回収の取り組みや北海道のびんリユースの現状と課題についての理解を深める有意義な見学会となりました。

